平成27年度　第3回目標協働達成協議会（全体協議会）

生徒の夢実現（目標達成）をめざす
学校・家庭・ 地域による目標協働達成の取組

H28.02.24(水)　佐伯市立昭和中学校　都留　俊之

地域・本校の概要

- 市中心部から西方約7km
- 佐伯IC近く、利便性高い
- 校区人口約7,400人
- 小中学生約620人
- 生徒数197人 9学級、やや増加傾向
- 校区3小学校と小中連携

＜本日の発表内容＞

1　モデル校指定の背景
2　学校の重点目標
3　目標協働達成に向けた研究構想
4　研究の実際
　（実践事例7つ）
5　まとめ（成果と課題）

1　背景　本校の役割

① 一定の規模がある中学校
② 本校・佐伯市の学力向上への期待
③ 1中学校区3小学校（弥生地域）での
　3者協働体制への期待
④ コミュニティ・スクールへの可能性、期待

目標協働達成モデル校（H26～）
学校教育目標(学力向上）の協働達成

1　背景　本校の「強みと弱み」

強み

生活・行動面
- ①あいさつができる
- ②ほとんどいない遅刻
- ③部活動に熱心
- ④規律ある活発な行事
- ⑤黙々と清掃（黙掃）

学習面
- ①学年を追うごとに落ち着きが増す

「喫緊の課題」は学習面の強みを増やすこと

生活・行動面
- ①自尊感情低い傾向
- ②LINE等のルール
- ③いじめ・心ない言動
- ④心の耐震度低い傾向

学習面
- ①話を聞く集中力
- ②家庭での学習習慣
- ③授業と家庭学習の連動
- ④学力の2極化

弱み

2　学校の重点目標

学校の教育目標

確かな学力と体力を身に付け、感性豊かで、自立する心と協力する心をもった生徒の育成

地道・徹底

確かな学力と体力の定着

喫緊の課題

学校・家庭・地域が協働

目標協働達成モデル校

生徒の夢実現（目標達成）をめざす

豊かな感性、自立する心と協力する心の育成

「チーム昭和」組織力の発揮

3　目標協働達成に向けた研究構想

～昭和中学校「協働4点セット」～

ねらい		内　容		方　法
確かな学力の定着	○次年度（H28）の全国学力・学習状況調査（現2年生）・大分県学力定着状況調査（現1年生）及び今年度の佐伯市評価規準診断テスト（現1年生）で各平均を上回る。 ○定期テストの平均点6割以上を70％以上、4割未満を10％未満にする。	学校	○学習規律・学習習慣の徹底 ○メリハリのある一時間完結型授業の徹底 ○積極的な情報発信による、「学校の見える化」の推進	・全教員が授業規律「4つのJ」を繰り返し、徹底して指導する。 ・学級・教科担任は生活ノート・自学ノートを点検し、学習の仕方を徹底して指導する。（「学びの手引」の活用） ・学級担任は家庭学習・朝学習・定期テストの学習サイクルを徹底する。（「地道・徹底シート」の活用） ・教科担任は時間、目標・学び合い・まとめ・言語活動を位置付け、板書とノートが連動する指導を徹底し、思考ツールを導入する。（学期2回の互見授業実施） ・学校だより、学級・学年通信を定期的に発行し、ホームページに掲載する。
		家庭	○子どもの学習意欲を高める。 ○子どもの家庭学習習慣を定着させる。 ○親が子どもに積極的にかかわる。	・週に1回「自学ノート」を見て、コメント（ほめること・やる気にさせること）を書き、これを徹底する。 ・週に1日の「ノーゲームデー」等、ゲーム・スマホを使う時間を制限するルール作りをし、これを徹底する。 ・「弁当の日」をきっかけに、親が子どもに積極的にかかわる。
		地域	○地域が子どもに積極的にかかわる。 ○学校の様子を地域に広める。 ○地域の小学校と協働した小中連携の推進	・区長会や地域行事の際、又は電話等で、地域の声（生徒や学校の良いこと、気になること）を学校に届ける。 ・学校だよりを月1～2回程度、学生掲興隆の協力により、地域に回覧する。 ・昭和中学校区小中連携教育推進協議会 ・小学校3校と中学校の児童生徒交流会 ・本校生徒による小学校学習ボランティア

3　目標協働達成に向けた研究構想

（1）研究のねらい

「確かな学力の定着」（本校の最重点目標）

めざすところ（達成指標）

①全国・大分県・佐伯市の学力テストで、各平均を上回る。

②定期テストの平均点6割以上を70％以上、4割未満を10％未満にする。

3　目標協働達成に向けた研究構想

（2）研究の内容（4つの柱）

①学習意欲・態度の喚起

②学習規律・学習習慣の徹底

③メリハリのある一時間完結型授業の徹底

④積極的な情報発信による「学校の見える化」の推進

3　目標協働達成に向けた研究構想

（3）研究の方法・役割（4つの柱①と連動）

①学習意欲・態度の喚起

→ 親や地域が子どもに積極的にかかわる。

◇週に1回「自学ノート」を見て、コメントを書きこれを徹底する。（家庭）

◇「弁当の日」をきっかけに子どもにかかわる。（家庭）

□地域の声を学校に届ける。（地域）

□地域の小学校と協働する。（地域）

3　目標協働達成に向けた研究構想

（3）研究の方法・役割（4つの柱②と連動）

②学習規律・学習習慣の徹底

→学習サイクルの徹底（地道・徹底シート活用）

◇「ノーゲームデー」等、ゲーム・スマホを使う時間を制限するルールを作り、これを徹底する。（家庭）

□地域の小学校と協働して校区小中連携教育推進協議会の諸活動を推進する。（地域）

3　目標協働達成に向けた研究構想

（3）研究の方法・役割（4つの柱③と連動）

③メリハリある一時間完結型授業の徹底

→「わかる」「できる」授業の徹底

※学校独自の取組のため、ここでは割愛します。

３　目標協働達成に向けた研究構想

（3）研究の方法・役割（4つの柱④と連動）

④積極的な情報発信による「学校の見える化」の推進

→地域が学校に関心をもつ（元気をもらう）

〇学校だよりや学級・学年通信を定期的に発行し、ホームページに掲載する。（学校）

□学校だよりを月２回程度、弥生振興局の協力により、地域に回覧する。（地域）

□地域の声を学校に届ける。（地域）

４　研究の実際
（7つの実践事例）

（1）3者協働を進行管理する組織づくり

「昭和中学校目標協働達成協議会」の組織図

会　長（PTA会長）

顧　問（学校長）

事務局（PTA幹事・地域協育担当）

【目標協働達成チーム会議】

・学校評議員（３）・振興局長（１）・地域協育コーディネーター（１）

・校区小学校長（３）・市教委担当指導主事（１）・ＰＴＡ理事（１６）

・校長（１）・学校代表（１）・事務局員（２）　（計２９名）

職員・保護者・地域住民

～H27目標協働達成チーム会議～

	【第１回チーム会議】	【第２回チーム会議】	【第３回チーム会議】
①日　時	5月1日（金）18：30～	7月3日（金）9：00～	11月10日（火）19：00～
②主な内容	・昨年度の取組の成果と課題	・経過報告 ・１学期学力向上対策	・経過報告 ・学力の分析と対策

3者協働の取組検証

授業参観、学校経営の意見交換

学力向上会議の機能を併せもつ

（1）3者協働を進行管理する組織づくり

▶校長として

・重要度高いが優先度低い重たい取組に対して

・必要感と本気度プレゼン

・主任を前面に出す

▶成果・課題

〇主任の意識の高まり。「要望者」から「当事者」へ

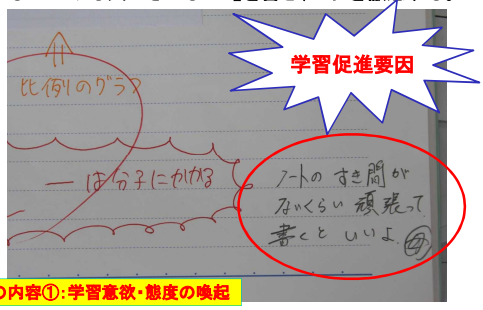
メンバーの意識変化

▲メンバー交替による意識の継続性

（2）「自学ノートコメント」と「我が家のルールづくり」

学校と家庭が協働

①　週に1回程度、親が「自学ノート」を見て、コメント【ほめること・やる気にさせること】を書き、これを徹底する。

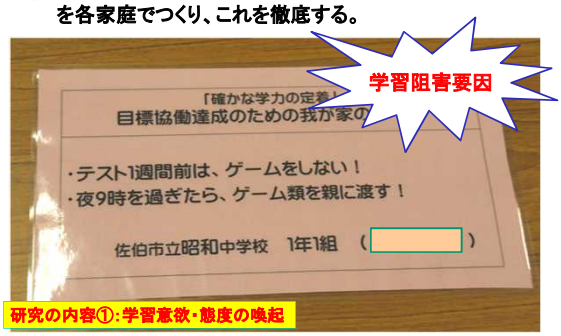


研究の内容①：学習意欲・態度の喚起

(2)「自学ノートコメント」と「我が家のルールづくり」

学校と家庭が協働

② 学習を阻害するゲーム・スマホなどを制約するルールを各家庭でつくり、これを徹底する。



研究の内容①:学習意欲・態度の喚起

(2)「自学ノートコメント」と「我が家のルールづくり」

学校と家庭が協働

▶校長として

・家庭学習の習慣化へ保護者へ周知徹底が鍵
・主任等へ2点指示（学級通信等で例文、出席率を上げるテーマ性ある学級懇談会）

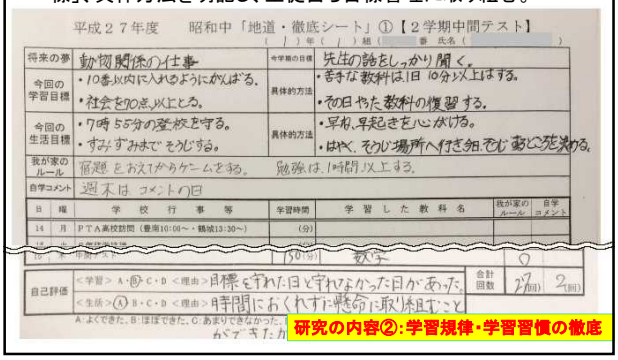
▶成果・課題

〇主任の活躍で出席率アップ（約80%）し、一気に浸透。
〇生徒・親・教職員はおおむね効果実感。
▲徹底が難しい。親の実行度50%。
親の危機感、教師間の本気度に温度差。

(3)「地道・徹底シート」で目標管理

学校と家庭が協働

テストごとのインターバルで「将来の夢」「学習目標」「生活目標」、具体方法を明記し、生徒自ら目標管理に取り組む。


平成２７年度　昭和中「地道・徹底シート」①【２学期中間テスト】

将来の夢	動物関係の仕事	今学期の目標	先生の話をしっかり聞く。
今回の学習目標	・10番以内に入れるようにがんばる。 ・社会を90点以上とる。	具体的方法	・苦手な教科は1日10分以上はする。 ・その日やった教科の復習する。
今回の生活目標	・7時55分の登校を守る。 ・すみずみまでそうじする。	具体的方法	・早め、早起きを心がける。 ・はやく、そうじ場所へ行き、自ら進んで取り組む。
我が家のルール	宿題とおえてからゲームをする。	勉強は1時間以上する。	
自学コメント	週末はコメントの日		

日	曜	学校行事等	学習時間	学習した教科名	我が家のルール	自学コメント
14	月	PTA高校訪問（豊海10:00～・鶴城13:30～）	(分)			
15	火	中間テスト	(分)			
16	水	中間テスト	150(分)	数学		

自己評価	<学習> A・B・C・D <理由> 目標を守れた日と守れなかった日があった。	合計回数	27(回)
	<生活> A・B・C・D <理由> 時間におくれずに懸命に取り組むこと		2(回)

A:よくできた、B:ほぼできた、C:あまりできなかった、
ができた力

研究の内容②:学習規律・学習習慣の徹底

(3)「地道・徹底シート」で目標管理

学校と家庭が協働

▶校長として

・生徒が夢の実現（目標達成）に向けて努力する営みを重視。年度途中、シート素案で導入を提起。

▶成果・課題

〇教務主任は素案を改良し、新しいツールとして開発。取組の実施状況把握をデータベース化。
〇目標を数値化するなどして、地道に取り組んでいる生徒ほど、目に見える成果が上がっている。
▲取扱のシステムに改善余地。

(4)親子がかかわる「弁当の日」

学校と家庭が協働

弁当づくりを通して生徒がやれる自分に気づく、親子が対話して生徒の自尊感情を高める取組

研究の内容①:学習意欲・態度の喚起

(4)親子がかかわる「弁当の日」

学校と家庭が協働

▶校長として

・弁当の出来栄えでなく、親子が対話することに意味があることを周知する必要。
・PTA専門部活動への位置付け要請。分掌主任へ食育指導の一環として道筋提示。

▶成果・課題

〇当初は学校主導で趣旨を周知。機運が高まる。76%生徒は「家の人と触れ合えた」と回答。
▲今年度PTA専門部活動に位置付いたが、学校主導と弁当づくりの「目的化」からの脱却。

（5）地域から声もらう、声を返す

学校と地域が協働

本校の強みの一つ。地域行事やボランティア活動への積極参加を活かす取組。

①地域に出かけ地域から声をいただく。

弥生児童館主催「みなこい祭り」

地域貢献

いろんなコーナーを生徒が担当

研究の内容①:学習意欲・態度の喚起

---

①地域に出かけ地域から声をいただく。

福祉施設でのボランティア

地域貢献

研究の内容①:学習意欲・態度の喚起

---

②地域から声をいただいた声を地域に返す

夢の実現（目標達成）めざして

目標協働達成モデル校
自主公開研究発表会

学校だより
校長のつぶやき Ⅲ

第１６号
H27.11.24発行
佐伯市立
昭和中学校
校長 都留 俊之

▼19日（木）、佐伯市内外教職員、保護者、地域の方々、全校生徒の約３００名が参加の中、モデル校2年目の節目で「夢の実現（目標達成）をめざして」を発表テーマに自主公開研を開催しました。▼基調講演では「たまちゃん」こと小玉　宏氏が経験に基づき話した「夢が欲のままになっていないか」「欲＝夢＝志の流れで最いはけう、その先に幸せをイメージすることが大切」という話が印象的でした。▼パネルディスカッションでは「夢の実現に必要なもの」のテーマで立川コーディネーター佐伯教育事務所次長の進行の下、７名のパネリストとフロアによる意見交流があり、大人も生徒も自問自答する機会となりました。特に、生徒代表の御幡君と井本さんの人前で堂々と意見を主張できる姿には感心しました。▼最後の感想では「スマートフォンやゲームも大切だったが、つい、夢の世界にもっと参加したい」「夢の内容だったが、夢の声が寄せられ、手応えある発表だった」「一緒に夢を見てくれる応援者も必要です」「生徒一人一人の夢（目標）実現が学校の目標達成につながるよう、学校・家庭・地域が絆を深め、チーム昭和のしくみを固めましょう。

研究実践発表

振興局の協力を得て、「学校だより」を月２回、250枚増し刷りして、各班ごとに全戸に回覧。

研究の内容④:学校の見える化

（5）地域から声もらう、声を返す

学校と地域が協働

▶校長として

・学校の顔（分掌主任等）を知ってもらう。
地域と学校をつなぐため、地域のこと・声を教職員へ伝える。

・学校のスポークスマンとして生徒の活躍、地域の声の取材活動。

▶成果・課題

〇地域から生徒の地域貢献を賞賛する声。
HPアクセス3倍。「学校だより」で学校へ関心。

▲教職員へ地域でどう見られているかの啓発。
地域の人が生徒へどうかかわるか。

（6）小中連携「やよいっ子９年間の教育」

昭和中学校区小中連携教育推進協議会

学校と地域が協働

今年度から全教職員が部会所属

研究の内容②:学習規律・学習習慣の徹底

小学校3校・中学校の小小・小中交流会

校区6年生78名が中学生のリードで交流

研究の内容①:学習意欲・態度の喚起

出身小学校で学習支援ボランティア

研究の内容①:学習意欲・態度の喚起

（6）小中連携「やよいっ子9年間の教育」

▶校長として

・中学校は先行投資とリーダーシップ。
　小中連携の意義と弥生の課題を問題提起。
・教務主任と研究主任に独自ミッション。

▶成果・課題

〇4名の校長が共通認識。グランドデザインで共通の連携イメージ。小・中版「学びの手引」。

〇学習ボランティアや小中交流会でリーダー・先輩として自信と励みの醸成。

▲人事異動による引継ぎと人材育成。

▲「中1スタートプログラム」策定。

（7）パネルディスカッション

指定2年次 自主公開研究発表会

学校・家庭・地域が協働

テーマ:夢の実現（目標達成）に必要なもの

研究の内容①④:学習規律・学習習慣の徹底、学校の見える化

（7）パネルディスカッション（自主公開研）

▶校長として

・息の長い取組だからこそ、職員へ「〆切効果」発揮。
・データ蓄積の喚起。

▶成果・課題

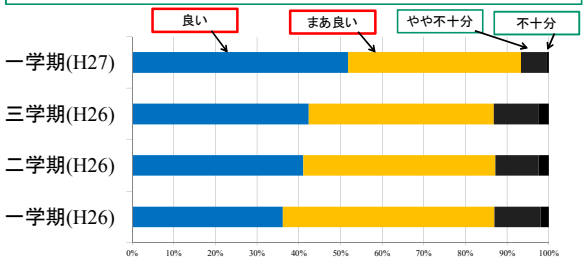
〇共通テーマで学校・家庭・地域の意見交流会が実現。
テーマ:「夢の実現（目標達成）に必要なもの」
　立場・年齢の異なるパネリスト・フロアの
　生徒・大人が一体となって生き方を考える場。

▲中1段階からのキャリア教育の充実

5 まとめ（成果と課題）

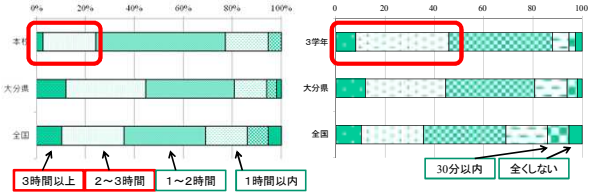
（1）成果①授業の肯定度と家庭学習時間が増加した。

目標・学び合い・まとめを位置づけた一時間完結型授業は、わかりやすいですか。 学校評価アンケート（生徒回答分）



学校の授業以外に、普段（月～金曜日）に、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾・家庭教師含む）

H27年度(3年生　74名)　　生活実態アンケート

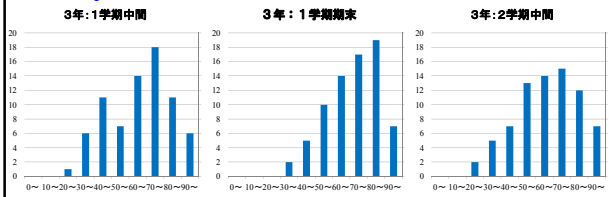


H27．4．21調査　　H27．11．5調査

（1）成果

②1・3年生は達成指標をおおむねクリアした。

定期試験　3学年



	１学期中間	１学期期末	２学期中間
得点率（%） 平均点（点）	66.2 331.0	71.4 642.8	66.7 333.6
６割以上の生徒（%）	66.2	77.0	64.0
４割未満の生徒（%）	9.5	2.7	9.3

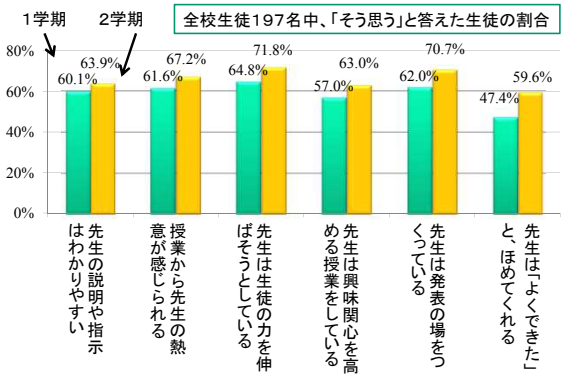
（1）成果

③校長自ら道筋と本気度示すことは、教務主任・研究主任等分掌主任が問題意識をもってフォロワーシップ発揮へ。

教職員と親のワークショップ

④生徒による授業評価が向上傾向　授業評価アンケートより

全校生徒197名中、「そう思う」と答えた生徒の割合



（2）課題

▲徹底は道半ば。「自学コメント」「我が家のルール」

＜「自学コメント」の親の実施状況＞　地道・徹底シート集計より

	2学期・中間	2学期・期末
1学年	54%	90%(62～126%)
2学年	26%	54%
3学年	25%	32%

＜「我が家のルール」の実施状況＞

	2学期・中間	2学期・期末
1学年	79%	▲68%(36～89%)
2学年	66%	▲52%
3学年	35%	56%

●教師・生徒・親の「本気度」

●「地道・徹底シート」がバロメーター

（2）課題

▲「徹底」のため、親や教師の「本気」をアピール。

▲キャリア発達の視点を位置付けた実践と検証。

▲H28.4月から佐伯市コミュニティ・スクールへ継続のための準備。

おわりに・・・3者協働の取組から感じていること

・「重要度高いが優先度低い」ままでは進まない。

・3者の意思疎通は3共有「目標・場・情報」から。

・3者3共有を進行管理するキーパーソンが不可欠。

・息の長い取組だからこそ、〆切効果を大切にショートスパンで検証・改善を図りたい。

ご静聴ありがとうございました。